

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	16
施設名	葛飾区南堀切保育園
施設所在地	葛飾区堀切1-23-3
法人名	葛飾区

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然
～虫～

<テーマの設定理由>

- ・異年齢活動の散歩の中でみかんの木に付いていたアゲハチョウの幼虫を見つけ、飼育ケースの中でみかんの葉を与えて育て、チョウになって飛んでいったという経験から、更に虫に興味を持ち始めた。
- ・3つのグループを作って異年齢交流をしており、グループ名も虫の名前にしているくらい子ども達は虫が好き。

2. 活動スケジュール

令和7年6月:テーマ決定
令和7年7月:必要物品購入等
令和7年9月～2月:実施
(内訳:9月2回、10月1回、11月2回、12月1回、1月1回、2月1回 計8回)
令和8年2月12日(木):保護者向けすくわくプログラム展示会(映像もご覧いただく)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・あお虫が好きな柑橘系の木とパセリの苗を購入。
- ・虫の図鑑、虫メガネを揃え、子どもが好きな時に調べられるように環境を整える。
- ・ipadに取り込んだ虫の写真をスクリーンの大画面で見、皆で虫の生態を共有する。
- ・虫博士と虫に詳しい区役所職員に虫の話を子ども達に聞かせて欲しいと依頼する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・9/3(水)幼児の縦割りグループ(3グループ)で集まり、みんなが好きな虫をもっと調べてみようと保育士から提案し、子どもたちの反応を確認したり、意見を聞く。ひまわり会のグループ名にもなっている「ちょう」「てんとうむし」「とんぼ」の画像をスクリーンの大画面で見る。
- ・9/17(水)トンボ・てんとう虫・ちょうを探しに散歩に出かける。3グループ別々の場所へ。
- ・10/28(火)虫博士を招いてむしむしワールドを開催。飼育ケースに入っている生きた虫や標本を見せてもらったり、虫の生態を教えてもらう。
- ・11/11(火)むしむしワールドで学んだことの振り返りをする。グループに分かれて図鑑で調べたり、調べてわかったことをグループの友だちと共有する。幼児の3グループで協力して虫の絵を描き、大きな模造紙に貼る。
- ・11/19(水)むしむしワールドの際に、虫博士から「あおむしが好きな植物は柑橘系の葉やパセリ」と教えてもらい、幼児3クラスでみかんの木とパセリの苗を花壇に植えた。あおむしが来るのを楽しみに待つことにした。
- ・12/9(火)今まで調べたこと、学んだことを絵に描いたりグループごとに学びをまとめる。
- ・1/20(火)グループごとに年長児が、これまで学んだ事のまとめを発表し、年長が作った虫のクイズを3,4歳児クラスに出題。
- ・2/6(金)子どもたちからもう一度虫博士の話を聞きたいという要望があり、再びむしむしワールドを開催。標本や生きている虫、蜂の巣を見せてもらった。質問コーナーでは、活動の中で虫の知識を得た子どもたちが、大人でも答えられないような難しい質問をしていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・今年のひまわり会(幼児縦割りグループ)の活動は、虫についてみんなで調べていきましょうと提案すると、子ども達はとても喜んでいて。まずなにかから始めようかと投げかけたところ、「グループで散歩に行き、虫を探したい」という意見が子ども達から出た。
- ・活動を進めていくにつれて、子どもたちが図鑑で調べる姿が増えてきた。自ら学ぼうとする姿に成長を感じる。子ども同士、虫の情報を共有する姿も見られてきて、虫に詳しくなってきた。毛虫が園庭に出た日に、害虫なので駆除していると、図鑑を持ってきて調べようとする姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・テーマを絞って活動することにより、知識が広がり、楽しみながら学ぶ事が出来た。虫への関心が薄かった子もすくわくを通して興味が出てきた。また、様々な機会(むしむしワールド等)に触れて、子どもたちの好奇心が育った。
- ・子どもたちの探求心を引き出す為、環境を整える事を大事にしてきたが、改めて日頃の環境設定の大切さを感じた。
- ・子どもたちが自ら図鑑を出して虫を調べたりと主体性と探求心が育った。友だち同士教えあったり、異年齢の交流も自然に持てるようになったと感じる。
- ・2回目のむしむしワールドにて、虫への質問では、大人が知らないような虫の名前も出てくるようになり(特に5歳児)、保育者の知識を超えた子どもたちの姿が見られ、それぞれの自信に繋がった。